

「この人 71」

佐野萬里子 76歳 三重県

編集部 俳句を始められたのは？

佐 野 公立学校を停年退職後、伊勢の山口誓子俳句館に出かけ、そこに俳句塾があって入門しました。その後、「天侶」に入会しましたが、新人賞で同人にいただいた直後に終刊。翌春、発足した「煌星」に入会して現在に至ります。

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

佐 野 俳句ではちょっと軽すぎると言われたり、川柳でも、しきたりがあって発表の場が無い時に、「俳壇」の滑稽俳句を見つけました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

佐 野 滑稽は、本来、俳句に存在する俳諧の精神ですが、ちょっとした本音をひとひねりするところと、発想の転換の面白さでしょうか。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

佐 野 ストレスの発散、癒しになります。行き詰った時、視点の換え方のヒントになります。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

佐 野 考えると出来ません。出来ない時は、八木会長の「滑稽俳句術」を見直すようにしています。
思いつきをメモしておくこともコツですね。

【代表句】

父と子の眼鏡で仰ぐ初日の出
孕み猫しづしづ軒を通りけり
血糖値気にはなれども桜餅
時代祭戦国武将落馬して
年賀状一年越しの往復便